

セラミック九州

佐賀県立九州陶磁文化館報
有田焼創業400年記念 特別号

ARITA
EPISODE 2
BY SAGA PREFECTURE

No.52

発行 2016. 3. 31

編集 佐賀県立九州陶磁文化館

館長 鈴田 由紀夫

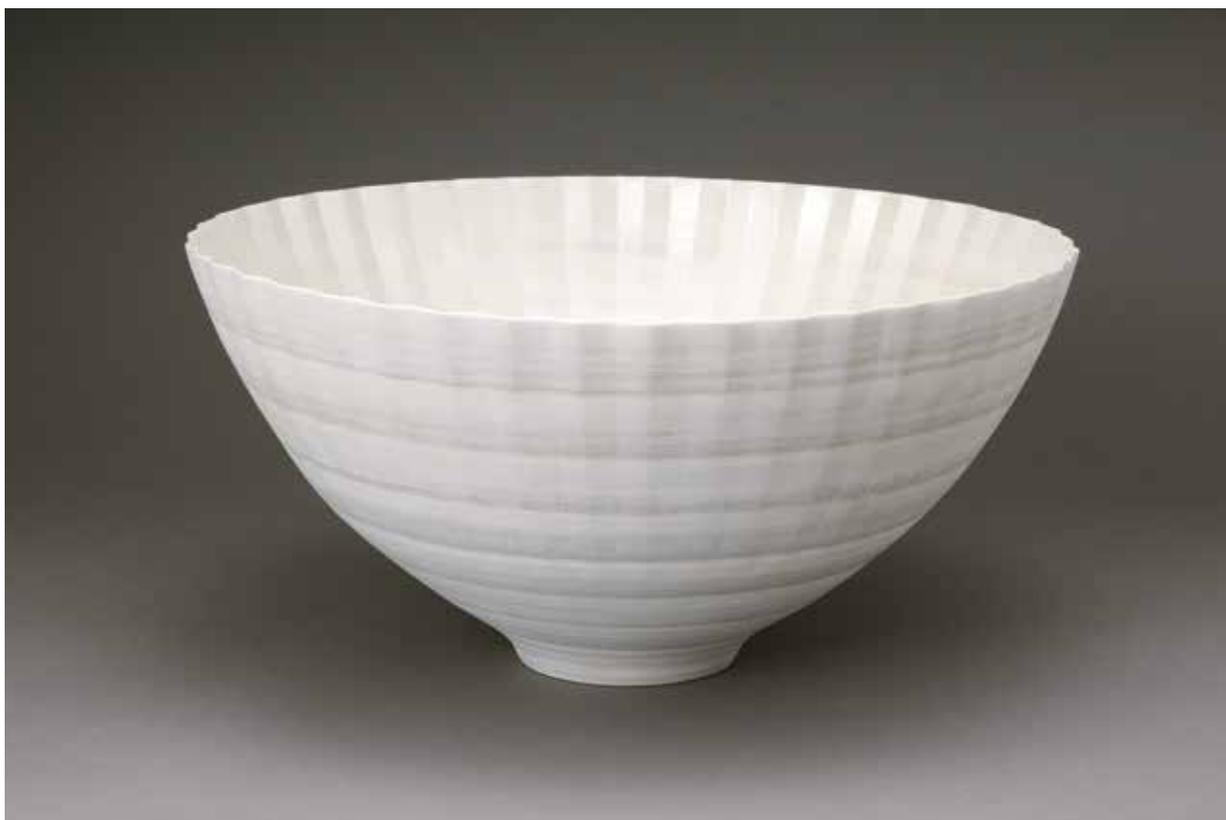
〒844-8585 佐賀県西松浦郡有田町戸約乙3100-1

TEL.0955-43-3681 FAX.0955-43-3324

<http://saga-museum.jp/ceramic/>

E-mail: kyuto@pref.saga.lg.jp

このセラミック九州No.52では、主に当館で予定されている平成28年度事業の数々をご紹介する内容とし、有田焼創業400年記念特別号といたしました。好評をいただいている日本アジア協会副会長田中恵子氏によるシリーズ「ヨーロッパの肥前陶磁器を訪ねて」と、シリーズ「やきものの技法」「やきものにみる文様」は、今号はお休みいたします。



しえる
〈Shell〉

有田 辻 浩喜

平成26年（2014年）制作
九州陶磁文化館所蔵 辻 浩喜 氏贈

器全体に水平方向には細い線彫りを入れ、呉須等の顔料による彩色を加えている。縦方向には鎊を入れることで貝をおもわせる形状をつくる。外面は光沢をおさえたマット釉をかけ、内面には虹彩をはなつパール釉をかけることで、質感を効果的に生み出し、磁器による貝をたくみに表現している。有田の名家、辻家に生まれた陶芸家による作品。

第111回 九州山口陶磁展 文部科学大臣奨励賞
受賞作品。

～ごあいさつ～

有田焼創業400年を迎えて

メディアで既に広報されているように今年、西暦2016年（平成28年）は、有田焼創業400年を記念する年とされ、有田焼をとりまくさまざまなプロジェクトが計画されています。

これは、「朝鮮人陶工金ヶ江三兵衛（朝鮮名李參平）が、西暦1616年（元和2年）に泉山陶石を発見した」という、数少ない古文書を典拠に類推されてきた解釈を有田焼の創業の年としてきたことに由来します。1916年（大正5年）に300年記念、1966年（昭和41年）に350年の記念事業がとりおこなわれてきました。

1980年（昭和55年）に開館した当館にとっては、初めての有田焼創業にまつわる記念の年を経験することになります。既に当館は、有田焼創業400年事業の一環として、一昨年の2014年（平成26年）に「白き黄金ー有田・伊万里・武雄・嬉野の磁器の美と技ー」展、昨年の2015年（平成27年）には「明治有田 超絶の美ー万国博覧会の時代ー」展を開催してきました。「明治有田 超絶の美」展は、本年度も全国各地を巡回し、開催されます。

このほか、有田町の日本磁器誕生・有田焼創業400年事業実行委員会が企画する「400年有田の魅力展」や、民間が開催する「13代今右衛門×14代柿右衛門展」など、全国各地で開催される記念展に協力してきました。いよいよ記念の年となる今年は、これらの展覧会と並行して、当館を舞台にさまざまな展覧会と記念事業が開催される予定です。

一方で今年は、有田焼創業400年という記念の時節であることを意識してか、従来から企画開催されている展覧会にも変化がみられます。

まずは、1896年（明治29年）から有田町で開催されてきた「陶磁器品評会」を前身とし、通算113回の開催数を誇る日本最古の陶磁器展「九州山口陶磁展」が、「有田国際陶磁展」という名称に変わり内容が変わります。九州・山口地域の数々の名工、陶芸作家や窯元が会派を問わずに作品を出品し、審査評価が与えられることで、研鑽の場となってきたこの公募展が、一つの節目を迎えます。

このほか、日展を舞台に活動する工芸家の会派である現代工芸家連盟の九州会展は、従来の規模を拡大し、今年は佐賀有田展として記念展が開催されます。

そうした外部に事務局を置く展覧会もさることながら、当館にとって重要な今年の事業は、「人間国宝と三右衛門」展、「日本磁器誕生」展、「日本磁器の源流」展などです。これら創業400年を記念する企画展はいずれも開館から36年目を迎える当館の歴史にとって後世に記憶される展覧会になることをめざし、目下準備を進めています。これまで当館の活動にご協力とご支援いただいている皆様に深く感謝し、有田焼創業400年を記念するこの機会に、九州の陶磁器文化に貢献できる博物館であるよう、努めていきたいと思っております。

佐賀県立九州陶磁文化館 館長 鈴田由紀夫



第5展示室 柴田夫妻コレクション（登録有形文化財）
江戸時代の有田焼を常時約1,000点展示しています。



館長 鈴田由紀夫

～平成28年度展覧会のお知らせ①～

第113回有田国際陶磁展 (美術工芸品・オブジェ部門)

- 主催 佐賀県 有田町 有田商工会議所
- 会場 佐賀県立九州陶磁文化館
第1・第2展示室
- 会期 平成28年4月29日(金・祝)～5月8日(日)
- 休館日 なし
- 観覧料 無料

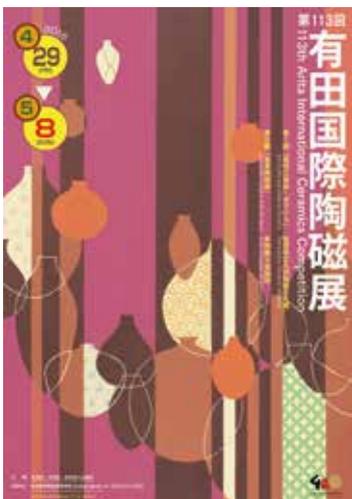
1896年(明治29年)に「陶磁器品評会」として発足した本展覧会は、優れた陶磁器作品を一堂に展示し、伝統的工芸の継承と陶磁器産業の発展を期することを目的として開催されてきました。

開館以来、佐賀県立九州陶磁文化館は、「美術工芸品・オブジェ部門」の会場であり、陶器市でにぎわうこの時期の恒例行事として入選作品をご覧いただきました。

第110回から全国公募展となり、国内在住の外国人陶芸作家の新鮮味あふれる入選作品を展示していることもあり、今回から、展覧会名称を「九州山口陶磁展」から、「有田国際陶磁展」に改称して開催されます。

さらに今回は各部門(美術工芸品・オブジェ部門、産業陶磁器部門)ともに通例の1位から3位までの副賞付きに加え、2作品に与えられる有田焼創業400年記念佐賀県知事特別賞が設けられています。また、産業陶磁部門の入賞作も当館で展示される予定です。

詳しい内容と募集要項等については、有田町ホームページに開設されている「有田国際陶磁展」<http://www.town.arita.lg.jp/main/120>をご覧ください。



有田国際陶磁展ポスター

～平成28年度展覧会のお知らせ②～

メゾン・エ・オブジェ帰国展 (仮称)

- 主催 佐賀県有田焼創業400年事業推進グループ
- 会場 佐賀県立九州陶磁文化館
第1展示室
- 会期 平成28年7月1日(金)～7月18日(月・祝)
- 休館日 7月4日(月)、7月11日(月)
- 観覧料 無料

佐賀県有田焼創業400年事業推進グループが数年かけて進めてきたプロジェクト「ARITA 400 project」の成果をお披露目する展覧会です。フランス・パリで開催される国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」へ出品・展示され、凱旋帰国する作品を中心にご紹介するものです。

プロジェクト参加事業者8社による作品とともに、日本を代表するクリエイターである奥山清行氏、北野武氏、隈研吾氏、佐藤可士和氏とのコラボ作品も展示されます。このほか、グラフィックパネルの展示なども予定されています。

国際市場で再び注目されている新しい有田焼をぜひご覧ください。



メゾン・エ・オブジェにおける有田焼展示会場

～平成28年度特別企画展のお知らせ①～
佐賀県有田焼創業400年事業 特別企画展
人間国宝と三右衛門

○趣 旨

佐賀県の有田焼や唐津焼は日本を代表する焼物として知られ、そのなかでも有田の今右衛門窯、柿右衛門窯、唐津の太郎右衛門窯はそれぞれの伝統と歴代の作品によって高い評価を受けてきました。また歴史ある産地の風土の中から人間国宝を輩出し、今日では有田の井上萬二氏と14代今泉今右衛門氏は白磁と色絵磁器の、武雄の中島宏氏は青磁の技術保持者として人間国宝に認定されています。

この度の特別企画展は有田焼創業400年を記念し、人間国宝の井上氏、中島氏、今泉氏の代表作と、いわゆる三右衛門の歴代の作品を展示し、伝統によって生み出された日本を代表する作品を紹介するものです。

○展示構成（予定）

- 1) 井上萬二作品
- 2) 中島宏作品
- 3) 今右衛門窯作品
14代作 13代作 12代作
11代作 10代作など
- 4) 柿右衛門窯作品
15代作 14代作 13代作
12代作など
- 5) 太郎右衛門窯作品
14代作 13代作 12代作
11代作など

- 主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
(佐賀県有田焼創業400年事業実行委員会)
- 会 場 佐賀県立九州陶磁文化館
第3展示室
- 会 期 平成28年8月11日(木・祝)～9月25日(日)
- 休館日 月曜日(9/19(日・祝)は開館)
- 観覧料 無料
- その他 期間中 人間国宝と三右衛門の作品で食事ができる期間限定の特別なレストランが館外のアプローチデッキにオープンします(11月27日(日)まで)。



白磁緑釉牡丹彫文鉢 井上萬二作
平成元年(1989)
佐賀県立九州陶磁文化館蔵 井上萬二氏贈



色絵薄墨墨はじき雪文鉢
14代今泉今右衛門作 平成24年(2012)
佐賀県立九州陶磁文化館蔵 14代今泉今右衛門氏贈



青瓷彫文壺 中島宏作
平成5年(1993)
佐賀県立九州陶磁文化館蔵

～平成28年度特別企画展のお知らせ②～
 佐賀県有田焼創業400年事業 特別企画展
 「日本磁器誕生」

○趣 旨

日本で最初の磁器が17世紀初頭に有田で創始され、2016年に創業400年を記念するにあたり、有田磁器の革新と発展を軸に日本磁器400年の歩みとその美を紹介する展覧会です。

日本磁器は、朝鮮陶工による技術導入を契機として誕生し、さらに中国系の技術導入をすることによって、色絵磁器が生み出されるなど、国際情勢もかかわり合いながら歴史をつむいできました。また、各時代の日本社会や価値観や美意識を反映し、その時代の精神を写す鏡として、日本ならではの多様な形、文様、様式の磁器が生み出されてきました。

この展覧会は有田を中心とする日本磁器400年を振り返り、その多様性と美を再認識するものです。

○展示構成

第1部 日本磁器の創始と色絵の誕生

- 1) 日本磁器の誕生
朝鮮技術の導入による肥前の磁器生産開始と国内への流通
- 2) 技術革新と色絵の誕生
中国陶磁の影響と有田の技術革新

第2部 肥前磁器の発展と継承

- 1) 海外輸出と様式の完成
海外への輸出と柿右衛門様式、古伊万里金襴手様式の確立、将軍家献上の鍋島焼
- 2) 近代の躍動
海外輸出の再興と超絶技巧
- 3) 現代への継承
十三代今泉今右衛門、十四代酒井田柿右衛門、井上萬二、中島宏、十四代今泉今右衛門など

第3部 日本各地の磁器誕生と多様性

平戸焼、姫谷焼、京焼、九谷焼、瀬戸焼など

- 主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
- 会 場 佐賀県立九州陶磁文化館
第1・第2・第3展示室
- 会 期 平成28年10月7日(金)～11月27日(日)
- 休 館 日 月曜日(10月10日(月・祝)は開館)
- 出品点数 約130件
- 観 覧 料 無料
- 展示解説 会期中毎週土曜日 14:00～15:00
- そ の 他 期間中、人間国宝や三右衛門の作品で食事ができる期間限定の特別なレストランが館外のアプローチデッキにひきつづきオープンしています。



(第1部-1日本磁器の誕生)
 染付花唐草文小皿
 肥前・有田窯
 1610～30年代
 佐賀県立九州陶磁文化館蔵 柴田夫妻コレクション



(第1部-2技術革新と色絵の誕生)
 染付山水文輪花大鉢 重要文化財
 肥前・有田窯
 1640～1650年代
 佐賀県立九州陶磁文化館蔵 今泉吉郎氏贈

～平成28年度特別企画展のお知らせ③～

佐賀県有田焼創業400年事業 特別企画展

「日本磁器の源流」

○趣 旨

日本で最初の磁器は17世紀初頭に有田で誕生しました。2016年(平成28年)の創業400年を記念するにあたり、現在の有田焼の源流であり、世界市場でライバルとなった中国磁器との影響関係を、「富永コレクション」を中心にご紹介します。

長く世界市場のスタンダードであった中国磁器に追いつき、越えようとした有田焼のその源流を見る展覧会です。

「有田焼創業400年」を契機に開催しますので、多くの方々のご観覧をお待ち申し上げます。

- 主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
- 会 場 佐賀県立九州陶磁文化館
第1・第2・第3展示室
- 会 期 平成28年12月9日(金)～平成29年1月
15日(日)
- 休 館 日 月曜日(1/2(月・振休)と1/9(月・祝)
は開館)12月29日～31日・1月1日
- 出品点数 約570件
(うち富永コレクション:約560件)
- 観 覧 料 無料
- 展示解説 会期中毎週土曜日 14:00～15:00

○展示構成

- 1) 中国染付のはじまり
染付の源流、元・明時代前期の景德鎮染付磁器。
- 2) 戦国大名が求めた景德鎮磁器
全国の城などから出土する景德鎮磁器
- 3) 織豊政権時代の中国磁器
景德鎮磁器の盛行と漳州窯磁器の登場
- 4) 有田磁器が目指した明末の中国磁器
日本向けの古染付とヨーロッパ向けの芙蓉手。
景德鎮磁器、漳州窯磁器とその影響を受けた
初期の有田磁器
- 5) 有田磁器と競った中国磁器
清初のヨーロッパ向け景德鎮磁器と東南アジ
ア向け福建磁器
- 6) 清朝後期の中国磁器と中国磁器写し
明末中国磁器写しと清朝磁器の影響



染付雲鶴文輪花皿
中国景德鎮
1620～1630年代
富永コレクション



染付唐人文大鉢
中国景德鎮
1620～1640年代
富永コレクション

～平成28年度その他の事業のお知らせ①～

九陶バザール♪

- 主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
- 会 場 佐賀県立九州陶磁文化館
エントランス等
- 会 期 平成28年4月29日(金・祝)～
5月5日(木・祝)
- 休館日 なし

有田陶器市の開催にあわせ、今回で4回目を迎える特別イベント「九陶バザール♪」を開催します。佐賀県の特産品などを扱うお店が参加。また、三右衛門窯の皿が当たる抽選会も実施します。



昨年度のチラシ

～平成28年度その他の事業のお知らせ②～

「究極の器で佐賀の食を！-佐賀馳走-」

- 主 催 佐賀県有田焼創業400年事業推進グループ
- 会 場 佐賀県立九州陶磁文化館
アプローチデッキ
- 会 期 平成28年8月11日(木・祝)～11月27日
(日)
- 休業日 期間中の月曜日(9/19(月・祝)、10/10日
(月・祝)は営業)

九州陶磁文化館のアプローチデッキに仮設空間を設置し、期間限定の特別なレストランが誕生します。

特別企画展「人間国宝と三右衛門」展と連動したもので、人間国宝や三右衛門の究極の器で、佐賀の食材にこだわった食事が提供されるなど、日常では体験できない特別な食空間を体験できます。佐賀県の有田焼創業400年事業で取り組んできた国内外のおプロジェクトや、開発商品の展示紹介も行います。



建物イメージ写真

～平成28年度その他の事業のお知らせ③～

特別企画展イベント

- 主 催 佐賀県立九州陶磁文化館
- 会 場 佐賀県立九州陶磁文化館
エントランス 展示ホール 講堂等
- 会 期 平成28年8月中旬～平成29年1月中旬の
うち土日祝日を中心に(未定)

特別企画展の開催期間中、展示解説ほかさまざまなイベントを実施する予定です。詳細が決まり次第ホームページ、フェイスブック等で告知します。



昨年度のイベントの様子

2010年度ミス・インターナショナル日本代表金ヶ江悦子氏によるトークショー(お相手:フリーアナウンサー之瀬裕子氏)

平成27年度特別企画展の報告

佐賀県有田焼創業400年事業 特別企画展

「明治有田 超絶の美－万国博覧会の時代－」

- 主催 佐賀県立九州陶磁文化館
- 共催 西日本新聞社
- 協力 有田ポーセリンパーク 香蘭社
江上料理学院
- 特別協力 世界文化社
- 後援 サガテレビ テレビ西日本
テレビ長崎
- 会場 佐賀県立九州陶磁文化館
第1・第2・第3展示室
- 観覧料 600円(500円)/大学生 300円(200円)
高校生以下無料
()内は、20名以上の団体料金
障害者手帳等をお持ちの方、および介護者
の方は無料
- 会期 平成27年10月16日(金曜日)～12月6日
(日曜日) 47日間 月曜休館(11月2日と
11月23日は開館)
- 出品点数 163件277点
(陶磁器112件225、図案48件49点、
古文書3件3点)
- 展示構成 第1章 万国博覧会与有田
第2章 「香蘭社」の分離と「精磁会社」
の誕生
第3章 華やかな明治有田のデザイン
第4章 近代有田の発展

○内 容

江戸幕府の終焉とともに明治時代が始まると、有田焼は政府により殖産興業製品として位置づけられ、明治政府作成の温知図録等の新図案をもとに革新的な有田焼が創出されました。当展では明治期の有田をリードした香蘭社や精磁会社を中心に、万国博覧会への出品作品や皇族・華族が使用した洋食器、それらの元となった図案類などを展示し、明治有田の超絶の美を紹介する展覧会でした。

会場には万国博覧会や内国勸業博覧会を記録・撮影した写真パネルに写る当時の有田焼を紹介するとともに、その現物もしくは同類作品が展示されました。とくに大花瓶や大香炉、透かし彫りのある超絶技巧の製品に、多くの方が驚嘆し、産地である有田の誇りを示し、印象に強くのこる展覧会場となりました。

なお、この展覧会は、全国各地の5会場(予定)に巡回し、開催されます。

◎関連イベント 期間中、展覧会にあわせて下記のもよおしが開催されました。

- 展示解説 毎週土曜日
14:00～15:00
- 記念茶会 10月18日(日) 11:00～14:00
・茶道裏千家 南宗紅社中による立礼席
- 記念講演会 10月18日(日) 14:00～15:30
・本展監修者 当館館長 鈴田由紀夫による講演
「明治有田超絶の美 万国博覧会の時代」
(会場:講堂)
- 特別講演会 11月1日(日) 14:00～15:30
・料理研究家 江上料理学院院長 江上栄子氏による
講演「ふるさと有田の思い出とうつわへの思い出」
(会場:展示ホール 展示室)
- トークショー 11月8日(日) 14:00～15:00
・2010年度ミス・インターナショナル日本代表
金ヶ江悦子氏によるトークショー「オンリーワンの
美しさ～世界に羽ばたく日本の美～」
(お相手:フリーアナウンサー一之瀬裕子氏)
(会場:展示ホール)
- デザインセミナー 11月15日(日)10:00～12:00
・一級技能士(絵付)伊万里・有田焼伝統工芸士
岩永千穂子氏によるワークショップ
(会場:研修室 展示室)

このほか、会期中にはカフェテラス彩にて、佐賀の美味しいスイーツによる期間限定特別メニューが登場しました。また、当館の愛称「九陶(きゅうとう)」にかけて、910人目ごとの来館者に、有田焼をプレゼントする企画を実施しました。



(上)色絵菊花流水文透台付花瓶(対)
個人蔵



(右)染付蒔絵富士山御所車文大花瓶
有田ポーセリンパーク蔵